

■大原幽学 農村指導者、経世家。農協の先駆となる世界初の産業組合で農村振興したが、革命恐れる幕政の犠牲に。

おおはらゆうがく

昌平饗始・1797= 生。尾張藩士大道寺氏の出と伝えられる。

青洲麻酔手術1805= 8歳：儒学・武芸などを学び始める。

げんりょう復讐・1806= 9歳：

ゴロブニ拿捕 1811=14歳：槍術も始める。

黒住教・・・1814=17歳：事情あって生家を勘当され、熱田神宮神官田島氏のところに寄寓、武芸で立身することを志し、畿内に入り、京都九条家に転勤した田島氏に再び寄寓し、典故、観相、歌道を学ぶが、

・・・1815=18歳：

伊能測量終・1816=19歳：田島氏のもとを去り、漂泊の旅に出る。

水野忠成老中1818=21歳：高野山に滞留、

・・・1820=23歳：近畿、中国などを巡歴、

伊能図完成・1821=24歳：近江伊吹山松尾寺に寄寓、住職堤宗から易・相学を学んだのをはじめ、多くのことを学ぶ。

シボク朴来日・1823=26歳：松尾寺を出て、畿内を廻り、再び高野山に滞留、

シボク朴鳴滝塾1824=27歳：高野山を下り、近畿を巡歴、

・・・1826=29歳：大坂の町年寄の食客となり、そこを根拠にさらに巡歴を続け、「口まめ草」を書き始める。

日本外史・・・1827=30歳：易学の伝授を始めたほか、和歌・俳諧の宗匠や占いを商売にして生活を支えていたと考えられる。

シボク朴事件・1828=31歳：

シボク朴道放・1829=32歳：四国まで巡歴するうち、生活の資に苦しみ、

富籤流行・・・1830=33歳：松尾寺の堤宗を訪ねて、禅の開悟を機に救世済民の道に進むことを決意し、さらに、漂泊を続ける。

富籤三十六景1831=34歳：上田で門人をとるようになるが、嫌疑を恐れて関東へ向かい、紹介を得て巡歴。天保期は全国的に不作で、米価騰貴のため農民や町人の騒動がたえまなく、房総東部の疲弊にはとくに心を痛める。

天保大飢饉始1833=36歳：*自己の教学に確信を持ち、「道の記」を書き始める。自ら聖学と名付け、門人を道友と称した。

高島砲術・・・1834=37歳：北総各地で道を講じ、門人70名に及ぶ。聖学を性学と改称。

滑稽+人情本 1835=38歳：名主の依頼で初めて長部村を訪れ、性学を講義。

・・・1836=39歳：近畿に戻ろうとしたが、道友に引き止められ、断念。「性学趣意」を著す。

大塩平八郎乱1837=40歳：*「子孫永相続」なる共有財産をつくり、農民の相互扶助の基とし、

適塾ホブシ・1838=41歳：*農業協同組合の先駆である先祖株組合を長部村ほか4ヵ村に結成させた。世界初の産業組合である。

蚕社の獄・・・1839=42歳：門人が500人を越え、子女の教育のため、親元から離れて他の道友の所で暮らす預かり子もとった。

勧進帳初演・1840=43歳：長部村の道友から居宅を提供され、領主に組合認可を申請、

天保改革始・1841=44歳：土地分合・耕地整理を開始、

天保改革弾圧1842=45歳：道友たちが居宅兼教導所の改築を計画、自らの設計により着工、

順天堂始・・・1843=46歳：完成し、*以後、下総香取郡長部村に定着。村の改革の後半生を捧げる。

この間、道友を伴い奥州旅行をしたり、何度も信州に赴く。

阿部正弘首座1845=48歳：

孝明天皇・・・1846=49歳：「微味幽玄考」成る。

指導の成果が評価され、

・・・1848=51歳：村役人・農民一同が領主から模範村として表彰される。小諸にも先祖株組合を結成。

北斎没・・・1849=52歳：門人急増により、教導所建設の議が起こり、自らの設計により着工、

国定忠治疎・1850=53歳：門人の労働奉仕で完成したが、幕府の弾圧により、関東取締出役手先らに乱入事件を起こされ、

尊徳報徳論・1851=54歳：*領主、関東取締出役、さらに江戸で幕府評定所の取調べを受け、村預けとなる。

ペリー来航・1853=56歳：

その後何度も出府せざるを得ず、滞在費を補うため、門人たちは奉公や下働きをして仕送りをする。

蕃書調所・・・1857=60歳：判決の申し渡しがあり、組合の解散などの処罰を受け、謹慎の身となる。

五ヶ国条約・1858=61歳：期限が満ちて帰村したが、まもなく自刃した。生涯独身であった。